

さいたま市議会市民生活委員会 オープン委員会

講演者への質問及び回答について

【質問1】

さいたま市では、65歳以上が全人口の約35%であるのに、常に文化は16歳～25歳くらいを中心に行われている。

これからさらに高齢化が進むのに、都内にも行けない人たちのことを考える。

埼玉県はまず「人づくり」だと思う。

ツールや街並みの前に、人を育てるのにどうすればよいかを考える。

不幸にもさいたま市には文化が少ない。

回答（加藤種男氏）

ご指摘のように「さいたま市には文化が少ない」ように見えるのは、文化があるのだが、折角ある文化が総合的に活かされていないためだと考える。

「文化創造都市さいたま」をめざすという総合的なビジョンと、そのビジョンを可視化するための総合的な国際芸術フェスティバルの設立が必要と考える。

その際に、高齢者にこそ主体的に参画できる手法を検討したい。

【質問2】

複合施設の文化芸術を活かした運用は、タテ割りの行政では困難だと思うが。

芸術や文化は、建屋にあるべきか、外にあるべきか。

ビジョンで飯の種になるか。

文化は行政主導でつくるべきでは。

回答（加藤種男氏）

文化はその内容を行政が決めるべきものではない。しかしながら、民間主導で進める文化活動の促進を図るための基盤整備を行政が担っていく必要がある。その際に、都市全体の創造性を高めるためには、部署を横断した推進体制が必要である。

また、経済効果についてご指摘があるが、都市創造の観点からなされた芸術文化への総合的な投資は、横浜市における調査、海外では近年英国における調査結果も出ており、経済波及効果が大きいことは明白である。

【質問3】

さいたま市という歴史・文化の異なる市が合併した都市で統一したイメージ作りをするのは極めて難しい。

一言で何が可能かお話しいただきたい。

回答 （加藤種男氏）

合併による都市の総合イメージは、一言では明確にしにくいのが事実である。しかしながら、歴史的に江戸から最も近い街道上に開けた都市であることに着目すると、人々が世界中から集い出会い交流するという意味で、近年着目されている「モビリティ」という概念を用いて、「文化のモビリティ都市さいたま」という考え方を発展させると、新たな観光戦略としても寄与するかと考える。

【質問4】

恵比寿ガーデンプレイスにビール会社が支援する質の高い合唱団（ガーデンプレイスクワイヤ）があります。

もっと優れたすばらしい合唱団をさいたまの地にできればと願っております。

加藤様には、ぜひ実現に向け活動してください。

回答 （加藤種男氏）

合唱は、人々の心をつなぐと言う働きがあり重要だと考える。しかし、従来の合唱は、日本の伝統的な音世界から生まれたものではなかった。民俗芸能の中から新たな合唱形式を生み出せば、画期的なものになると考える。ぜひ検討したい。

【質問5】

さいたま市は、浦和と大宮という二大都市部の核（コア）があります。統一的な文化的テーマでさいたま市全体を盛り上げる具体的な事例としてどんなことが考えられますか。（市内には、鉄道・盆栽・漫画・人形・スポーツ（特にサッカー）という、限られた範囲での独自の文化は存在するのですが…）

回答 （加藤種男氏）※オープン委員会当日、会場で回答

ビエンナーレ・トリエンナーレ等、芸術祭が各地で開かれるようになっているが、いずれも、建築とか音楽とか特定のジャンルに特化している、という特色がある。後発であるさいたま市が取り組むとしたら、ジャンルを問わずに総合的に取り組むことが必要。

回答 （吉武大地氏）※オープン委員会当日、会場で回答

さいたま観光大使には、音楽、芸術だけでなく漫画、盆栽、サッカーなど様々な分野から選出され、活躍している。観光大使フェスティバルを開催できれば嬉しい。

【質問6】

加藤さんのご意見に賛同します。

さいたま市は、施設があちこちにありすぎです。

一か所に集めて人を呼ぶべき!!交通の便のいいところに。

回答 （加藤種男氏）

施設があちこちにあることは、それぞれの地域の密着を考えると、意味があると思う。しかし、地域の中心となるような施設では、美術館、ホール、図書館といった個々の文化機能だけではなく、区役所、カフェ、レストラン、商業施設、観光、産業振興などの複合的な機能が必要だと考える。その意味では、八戸市の「はっち」のあり方は参考になるのではないかと。

【質問7】

さいたま市に限らず、地域での文化活動の大半を担っている市民活動のあり方についてご意見を伺いたいと思います。

多くの団体会費のみでは立ち行かず、公共から何らかのサポートを得ているのではないかと思います。どの団体も、その活動が公共からのサポートありきになっているのではないかと想像します。

結果として、毎年得られるものという既得権的、硬直化したものになっていると危惧します。

また、その結果、新しい団体や若い人達の活動が近寄りがたいものになってしまっているのではないのでしょうか。

市民文化グループと公共からのサポートのあり方、関係についてお考えをいただければと思います。

回答 （加藤種男氏）

確かに現状ではご指摘のような傾向も否めない。これを解決するために、近年着目されているのが「アーツカウンシル」という手法で、東京都や大阪市が導入している。また、国も試行的な導入を始めており、沖縄県でも検討されている。簡単に言うと、具体的な個別団体に行政が直接的な支援をすることは弊害もあるので、行政とは一定の距離を置いた組織（アーツカウンシル）を設置し、その組織が個別の助成金制度の方向性や、具体的な助成先を決定する、というもの。このことの効果は、何のための助成金かという目標が明確になり、その運用も透明化され、助成金の効果が高まる点などがある。

【質問8】

芸術を推進していく上で、昨今、メディアの減少があると思います。

音楽番組の減少、ネットによる無料動画配信…、こういう現象において、アーティストが本来職業として生活していく上での支援が必要であると思いますが、何か対策についてお考えはありますでしょうか？

回答 （加藤種男氏）

芸術推進のためにメディアの果たす役割は大きいものがある。同時に、近年の芸術そのものの大きな変化とあいまって、メディアもまた大きく形を変えてきていると思う。特に近年着目しているSNSを活用することが、今日的な創造性の推進には効果があるものと考えている。

【質問9】

「文化芸術」と一口に言うが、「文化」と「芸術」はどのように関連づけられるのか？

- ①「文化人」に対し「芸術家」
- ②「文化行政」と言うが、「芸術行政」とは言わない
- ③「文化遺産」はあるが「芸術遺産」はない

回答 （加藤種男氏）

文化の定義は難しく、まさに十人十色の解釈があるが、人間の営みの中から生み出された知恵の総体が文化だとすると、近代の日本では、その中で高度に洗練された高尚なものを芸術と考えてきたように思う。ところが近年では、日本における芸術は本来もっと生活に密着したものだものではないか、という考え方が再認識され始めている。

そうしてみると、いろいろと手垢にまみれた「芸術」という用語が、使い勝手が悪いものに見えてきて、新たな用語がいろいろ模索されていると思う。私は「芸術」に変わる用語として暫定的に「アート」という言葉を使用している。これもいろいろ課題があり、歴史的な用語である「芸能百般」とでも言うべきかとも考えるが、いまだ結論を得ない。

【質問10】

さいたま市で、伝統・歴史を活かした「まちづくり」というか都市景観について、加藤さんにどうしたらよいか伺いたい。

文化芸術により都市イメージを向上させるには、さいたま市で何が求められていくか伺いたい。

例として、音楽祭とか演劇祭とか、総合芸術の取り組みが求められているのか。

回答 （加藤種男氏）※オープン委員会当日、会場で回答

東日本大震災を契機として、「自然と生活」をまちの中に取り戻すことが必要だが、それらをまちづくりに活かすためには工夫が必要。

工夫の一つとして「水辺」の復興があるが、さいたま市の見沼田圃を中心に水辺を復興していくという考え方ができると思う。

また、「文化のモビリティー都市さいたま」ということを考えると、人々が世界から集まってきて集う「街道と広場のある街さいたま」ということも考えられる。

このビジョンを明確に人々に伝達するために、音楽祭や演劇祭、美術展から建築・造園・盆栽・マンガ・映像・食文化まですべてを取り込んだ総合的な国際芸術フェスティバルをぜひ実施したいと考える。